

# 中学生の居場所づくりについて

平成 27 年 3 月

狛江市社会教育委員の会議

青少年の居場所について議論されるようになって久しい。狛江市においても、さまざまな視点から青少年の居場所について検討が行われているが、中でも、中学生の居場所は十分に提供されているとはいいがたい。小学生には放課後子ども教室（K o K o A）をはじめ、さまざまな事業が展開されている。高校生については、市内に高校が1校しかなく、多くが市外の学校に通学しており、それぞれの地域で居場所を確保することもできよう。しかしながら、中学生は多くの生徒が市内の中学校に通学しており、身近な居場所の確保が必要である。このことから、今期の委員会では、地域における「中学生の居場所づくり」に焦点を当て、検討を行うこととした。

## 1 中学生対象アンケートの実施

中学生の居場所づくりを検討するにあたり、中学生の現状や居場所に対する思いを調査するため、平成26年2月、市内在学の中学校2年生を対象にアンケート調査を実施した。

まず、部活動等に所属している割合は、全体の90.4%と非常に高かった。

次に、部活動やクラブ等の活動がない日の放課後に過ごす場所に対する設問には、自宅（47.4%）、学習塾（19.7%）、友人宅（10.9%）の順に回答があった。だれと過ごすかは、一人（39.3%）、友人（30.6%）、親（13.8%）の順であり、何をして過ごすかは勉強（22.6%）、インターネットやメール（20.3%）、ゲーム（18.4%）の順である。

性別などの属性による変化はあまり見られないが、過ごす場所について、男子が自宅（47.0%）、学習塾（17.2%）、友人宅（15.7%）であったのに対し、女子は自宅（48.7%）、学習塾（23.0%）、習い事教室（9.7%）であった。また、何をして過ごすかは、男子のゲーム（27.0%）、勉強（21.3%）、インターネットやメール（17.7%）に対し、女子は勉強（24.6%）、インターネットやメール（23.7%）、おしゃべり（16.7%）である。

さらに、放課後の過ごし方について、どのように感じているかを質問したところ、今の状態で満足は58.5%と過半数を占めており、以下、関心がない（20.0%）、やや満足（12.6%）、居場所が少ない（5.2%）、無回答（3.7%）となった。

以上から見て取れるのが、中学生の多忙さである。大多数が部活動に所属し、部活動がない日等は「自宅」で「一人」で「勉強」をしている中学生が最も多いのである。このような状況では、ほかに居場所を求める声が少ないのも当然のことといえる。

## 2 中学生の居場所の必要性

それでは、中学生に居場所は必要ないのか。かつて、青少年は大人も含めさまざまな年代の人々が集う中で、他者との関係性や社会の一員としての自覚を学び、自分の目指す姿を形成していった。それは、「自宅」で「一人」では決し

て学ぶことができない。社会状況の変化により、大人同士も地域の中でのつながりが希薄化し、携帯電話やインターネットの発達により直接顔を合わせることもすらなくなった今だからこそ、多様性を持つ「地域」と中学生を結び付ける「居場所」を作る必要があるのではないか。

以下、狛江市の実情を踏まえつつ、実現可能な方法として、① フリースペースの設置、② イベントへの参画の二点について報告したい。

### 3 先進事例の視察

中学生の居場所づくりをテーマに調査・研究を進める中、東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会において、施設の視察を行った。

〔実施日〕平成26年10月25日（土）

〔会場〕小金井市貫井北センター

#### ① NPO法人設立から貫井北センターオープンまでの説明から

平成26年4月1日に開館した小金井市では23年ぶりの新築オープンで図書館分室と公民館が一体となった新しい施設である。これから各地域で活用が期待される市民協働を基盤とした施設運営がされている。生涯学習の新しい場として市民が運営する図書館・公民館になっている。

各自治体も予算措置が難しい時代に、行政から与えられるサービスに頼るのではなく、市民が市民のために行政サービスを担う公共施設はこれからも各地で設置されることになると考えられる。狛江市も市民センターの改修が話題になっているが、市民が市民による公共施設の運営をすることによって、生涯学習の場としての活用が広がるのではないかと思われる。貫井北センターの運営はその点で大いに参考になる。

#### ② 図書館分室・公民館の施設見学から

近年のニーズをよく研究したうえで施設設置がされている。図書館では日差しを浴びて読書ができるテラス席の設置、親子で本を読むイベントや中高生が参加できるビブリオバトル<sup>1</sup>等市民からの要望に即応えられる図書館運営になっている。

公民館では、調理ができる明るく広い生活室、市民向けのパソコン教室、学生も集えるホール・スタジオ等世代の壁ができないような工夫があった。特にフリースペースでは中高生が集える（勉強をしたり、調べ物をしたり、おしゃべりをしたりする）場になっており、自分たちで自由に活用しながらも周囲の人たちにも思いやりをもって行動ができる場所となっているとのことであった。

---

1 ビブリオバトル：各自5分間で気に入った本を紹介、「どの本が一番読みたくなったか？」を投票し、「チャンプ本」を決定する。

### ⑨ グループ討議

2つのテーマ（1）市民の立場に立った社会教育のあり方（2）青少年の居場所作りで、6市（武蔵野市・三鷹市・調布市・府中市・狛江市・小金井市）の委員が分散して討議に参加した。

行政のシステムが違ふとこんなにも市民の活動が異なるのかというのが感想である。それぞれの委員が直接的に施設や各行事に積極的に参加しているということがわかった。市民目線を持って社会教育としての長期計画と行政の予算付けが大きいと多くの委員の方の意見であった。社会教育委員は考えや案を行政に提案するだけではないことを実感し、各委員の方が企画したことを実行できることで自覚と誇りを持っていらっしやることが伝わってきた。ベテランの社会教育委員の方から、社会教育委員は、生涯教育、社会教育、公民館活動、図書館等生涯学習に関することのファシリテーターになるというお話を伺った。

青少年の居場所づくりでは、調布市には中高生を中心にCAP<sup>2</sup>の活動があったり、大人の干渉を受けない場を設置したりしているそうである。武蔵野市は武蔵野プレイス<sup>3</sup>、小金井市では、リビング感覚で活用するオープンスペース、中高生のボランティアカード<sup>4</sup>による活動などの報告があった。

## 4 中学生の居場所についてのポイント

狛江市における中学生の居場所づくりの例として、岩戸児童センターおよび和泉児童館では、午後6時から7時までを中高生のみが利用できる「中高生タイム」として、スポーツ交流のほか、音楽活動の音魂（オンタマ）などの活動を行っている。また、南部地域センターにおいても、中学生が中心となり地域の子どもたちが参加できる事業（南部武遊伝）を企画・実施している。しかし、参加者が多いとはいえない状況であり、さらに拡充していく必要がある。

### ⑩ フリースペースの設置

アンケートで放課後に過ごしてみたい場所を設問したところ、「室内で友人と遊んだり勉強したりできる場所」を求める意見が目立った。この意見は近年多く見られることから、設置について検討を行った。

モデルケースとして、狛江市青少年第四育成委員会が主催している狛江第四中学校体育館開放事業が挙げられる。特筆すべきは、育成委員という「地域の大人たち」が主体となって、地域住民の交流の場として、また、遊び場として、フリースペースを提供していることであろう。8月を除く毎月第2土曜日の午後1時から5時まで実施し、平成25年度は延べ199人の利用があった。幼児か

---

2 CAP：調布市上石原にある中・高校生世代を対象とした施設。

3 武蔵野プレイス：武蔵野市境南町にある、図書館機能をはじめとし「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」等の機能を併せ持った複合機能施設。

4 ボランティアカード：子どもがボランティア活動を行うと、参加確認印を押してもらえるカード。

ら大人まで、地域のだれもがスポーツ・おしゃべり等自由に利用でき、中学生にとっては友人との休日の居場所にもなっている。

以下、我々が考えるフリースペースのあり方について、ポイントを列挙する。

- ・場所は既存施設の一部を利用する。
- ・常設であることが望ましいが、施設が少ない現状を鑑みると困難も予想されることから、せめて特定の日や曜日など、定期的な開放を行う。
- ・開放中は自由に出入できる。
- ・ボランティアとして地域の大人が見守り、時には勉強や遊びなどを教えられるとよい。
- ・大人は必要以上に介入せず、ルールもできる限り利用者の判断に委ね、自発性を促す。
- ・ボランティアについては、独自にコーディネーターを配置し、機能させることも想定できるが、平成28年度に完成を予定している市民活動支援センターのコーディネート機能を活用することを検討したい。

なお、平成25年3月に狛江市立公民館運営審議会が答申した「公民館事業の展開と施設の有効活用について」においても、「公民館内の空きスペースに、常設のフリースペースを設け」、「学校の長期休業中は、公民館内に常設の学習室を設置」し、「場所が確保できるならば、通年で開設するのが望ましい」と提案されており、狛江市民センター改修計画も含め、その動向を注目したい。

#### ◎ イベントへの参画

狛江市では、年に1回中高生対象の文化祭として、「中高生フェスティバル」を開催している。中高生を含む実行委員会が企画・運営しており、学校の枠を超え、時間・空間・仲間を共有し、幅広い交流を実現している。

さらにさまざまな世代の交流を図るため、地域のイベントにも中学生を取り込んでいきたい。中学生からも市民まつりをはじめ、地域のまつりに出店してみたいという声を聞くことがある。しかし彼らは、実際に参加するためのプロセスを持ち得ていないことから、実現のためには大人からの積極的な働きかけが必要である。まずは、まつりやイベント、ボランティア等についての情報を、掲示物、広報、その他中学生に広く行き届くツールを用いて周知する。逆に、中学生から参加したいイベント等を吸い上げていく。また、前述のフリースペースでできた仲間とそれを見守る大人が一緒になってイベントをつくりあげていくことも可能であろう。多くのイベントに、できるだけ企画段階から中学生を巻き込んでいきたい。参加してみてわかることもある。大人たちは、失敗も含め、中学生がしたことを認めることが必要だ。それにより、彼らは自分が認められていると感じ、成長していこう。大人から一方的に与えるのではなく、大人・中学生双方がともに地域のために活動する。このことから、中学生に地域の一員、地域の担い手としての自覚が生まれれば、地域全体の活性化が期待できる。

## 5 終わりに

狛江市ではとても多くの方がボランティアや生涯学習活動に積極的で、多くの団体が活動されている。今年の狛江市民まつりでも皆さん感じられたとおりでと思う。が、しかしこの先数年すると活動するメンバーが高齢化・固定化し、次世代に継承していけるかが問題となるであろう。その次世代を担う子どもたちが自然に関わっていく環境をつくり、お互いコミュニケーションができていくことで、もっと地域社会の一員になってもらいたいと希望する。東日本大震災でも、中学生が「逃げっぺー」と声を上げたことでその地域の住民が助かった例があった。日ごろからの地域住民としてのつながりが復興への原動力となったことは紛れもない事実だと思う。その一助としてこの報告書が各団体の参考になっていただければ幸いである。

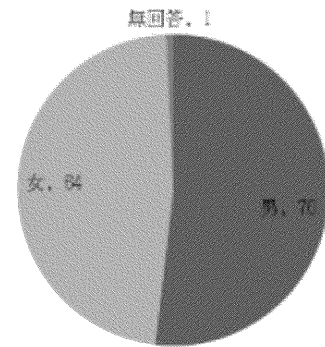
## 放課後の過ごし方アンケート

### ■ 実施概要

- ・ 実施年月 平成 26 年 2 月
- ・ 対 象 狛江市立中学校 2 年生（各学校 1 クラス） 135 人

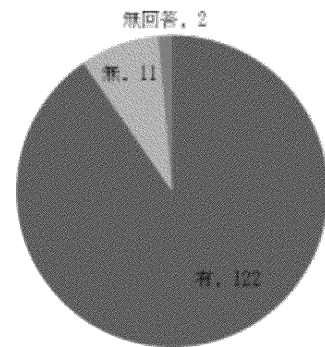
### ○ 性別

男	70 人	51.9%
女	64 人	47.4%
無回答	1 人	0.7%



### ○ 部活動やクラブ等所属

有	122 人	90.4%
無	11 人	8.1%
無回答	2 人	1.5%



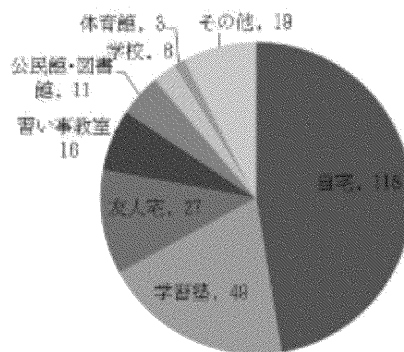
男			女		
有	62 人	88.6%	有	60 人	93.75%
無	7 人	10.0%	無	4 人	6.25%
無回答	1 人	1.4%	無回答	-	-

問 1. 放課後（部活動やクラブ等の活動がない日）はどのように過ごしていますか。

あてはまるもの2つに○をつけてください。

(1) どんな場所で

自宅	118人	47.4%
学習塾	49人	19.7%
友人宅	27人	10.9%
習い事教室	16人	6.4%
公民館・図書館	11人	4.4%
学校	6人	2.4%
体育館	3人	1.2%
その他	19人	7.6%



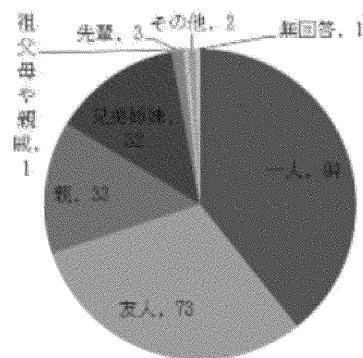
男

女

場所	人数	割合	場所	人数	割合
自宅	63人	47.0%	自宅	55人	48.7%
学習塾	23人	17.2%	学習塾	26人	23.0%
友人宅	21人	15.7%	習い事教室	11人	9.7%
習い事教室	5人	3.7%	友人宅	6人	5.3%
公民館・図書館	5人	3.7%	公民館・図書館	5人	4.4%
学校	2人	1.5%	学校	3人	2.7%
体育館	2人	1.5%	体育館	1人	0.9%
その他	13人	9.7%	その他	6人	5.3%

(2) だれと

一人	94人	39.3%
友人	73人	30.6%
親	33人	13.8%
兄弟姉妹	32人	13.4%
先輩	3人	1.3%
祖父母や親戚	1人	0.4%
その他	2人	0.8%
無回答	1人	0.4%



男

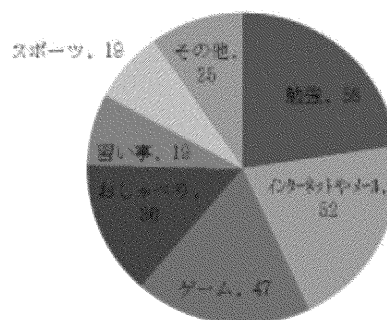
女

誰と	人数	割合	誰と	人数	割合
一人	51人	40.5%	一人	43人	38.4%
友人	40人	31.7%	友人	32人	28.5%
兄弟姉妹	17人	13.5%	親	17人	15.2%
親	16人	12.7%	兄弟姉妹	15人	13.4%
先輩	1人	0.8%	先輩	2人	1.8%
無回答	1人	0.8%	祖父母や親戚	1人	0.9%
			その他	2人	1.8%



(3) どんなことを

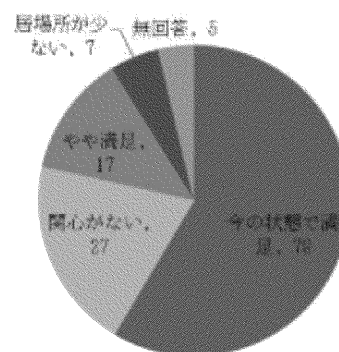
勉強	58人	22.6%
インターネットやメール	52人	20.3%
ゲーム	47人	18.4%
おしゃべり	36人	14.1%
習い事	19人	7.4%
スポーツ	19人	7.4%
その他	25人	9.8%



男			女		
ゲーム	38人	27.0%	勉強	28人	24.6%
勉強	30人	21.3%	インターネットやメール	27人	23.7%
インターネットやメール	25人	17.7%	おしゃべり	19人	16.7%
おしゃべり	16人	11.3%	習い事	11人	9.6%
スポーツ	14人	9.9%	ゲーム	9人	7.9%
習い事	8人	5.7%	スポーツ	5人	4.4%
その他	10人	7.1%	その他	15人	13.1%

問2. 放課後の過ごし方について、どのように感じていますか。

今の状態で満足	79人	58.5%
関心がない	27人	20.0%
やや満足	17人	12.6%
居場所が少ない	7人	5.2%
無回答	5人	3.7%



男			女		
今の状態で満足	39人	55.7%	今の状態で満足	40人	62.5%
関心がない	15人	21.5%	関心がない	12人	18.7%
やや満足	8人	11.4%	やや満足	8人	12.5%
居場所が少ない	4人	5.7%	居場所が少ない	3人	4.7%
無回答	4人	5.7%	無回答	1人	1.6%

## 自由回答

問 1. 放課後（部活動やクラブ等の活動がない日）はどのように過ごしていますか。

(1) どんな場所で

公園など	3
外	3
ゲームセンター、ゲームショップ	2
どこかに出かける	2
本屋	2
買い物	1
駅	1
おばあちゃんの家	1
児童館	1
六小の体育館	1
スイミング	1
町田やイトーヨーカドーで	1

(2) だれと

塾は一人で行くが授業が団体。自宅には家族がいる。	1
マリー（ディズニーキャラクターのネコ）	1

(3) どんなことを

テレビを見る	11
読書	6
1時間15分泳ぐ	1
野川を走る	1
夕食の準備	1
line	1
お絵描き	1
カラオケ	1
ねる	1
ぼーっとする	1
何もしない	1

問3. 問2で1（居場所が少ない）あるいは2（居場所がやや足りない）に○をつけた方に聞きます。あなたは放課後に、① どんなところで、② 何をしたいですか。一緒に③ 理由も教えてください（自由に回答してください）。

サッカーなどの球技ができる公園	5
室内で遊べる場所	5
体育館	3
ショッピングモール	2
友達と過ごせるようなゲーセンとかカフェなど	2
もっと皆で勉強できるような場所	2
友人の家	2
学校外に行きたい	1
金がほしい	1
気軽に先生に質問できる場所	1
図書室	1
公民館	1
楽しい場所	1
習い事に行っていて、時間がないから、もう少し自宅にいる時間がほしい。	1
本屋	1
電気屋	1
洋服屋さん	1
食堂	1

狛江市社会教育委員名簿（平成 27 年 3 月 31 日現在）

	氏 名
委員長	善養寺 大作
副委員長	住友 和子
委 員	飯坂 ひとみ
委 員	伊藤 輝芳
委 員	大野 耕平
委 員	豊島 秀臣
委 員	中川 康弘
委 員	森永 ひさぎ

狛江市社会教育委員の会議開催経過

	開催日	主 な 議 題
1	平成 25 年 4 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員長・副委員長の選出について</li> <li>・ 平成 25 年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について</li> </ul>
2	5 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について</li> </ul>
3	6 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度のテーマについて</li> </ul>
4	9 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 5 ブロック会議について</li> <li>・ 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 1 回理事会について</li> <li>・ 狛江市社会教育関係委員代表者連絡協議会について</li> <li>・ 中学生の居場所づくりについて</li> </ul>
5	10 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生の居場所づくりについて</li> </ul>
6	12 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 5 ブロック研修会について</li> <li>・ 東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会について</li> <li>・ 第 44 回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会について</li> <li>・ 中学生の居場所づくりについて</li> </ul>
7	平成 26 年 1 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生の居場所づくりについて</li> </ul>
8	2 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 2 回理事会について</li> <li>・ 中学生の居場所づくりについて</li> </ul>
9	4 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の審議事項について</li> <li>・ 東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について</li> </ul>
10	6 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 狛江市社会教育関係委員代表者連絡協議会について</li> <li>・ 中学生の居場所づくりについて</li> </ul>
11	9 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 5 ブロック研修会について</li> <li>・ 中学生の居場所づくりについて</li> </ul>
12	11 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第 5 ブロック研修会について</li> <li>・ 中学生の居場所づくりについて</li> </ul>

	開催日	主 な 議 題
13	12月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会について</li> <li>・中学生の居場所づくりについて</li> </ul>
14	平成27年 1月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の居場所づくりについて</li> </ul>